
嘘だけど…

乃舞

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

嘘だけど…

【Zマーク】

Z6534K

【作者名】

乃舞

【あらすじ】

僕は嘘つき。気になるあの子との通学路。

僕の傘を雨が叩く。

ぱらぱらと…。

止みそうだ。

うん…、

嘘なんだけど。

皆が、傘が飛ばされないようことに体制を低くした。

僕は姿勢を正してみた。

足が少しど、

鞄が少し濡れた。

後ろをひたりと足音が。

小さな小さな足音が。

雨音に負けてしまいそつな音。

あの子だ。

栗色の長い髪。

同じ絵の具で描かれた瞳。

ほんのり紅い頬。

真っ白な肌の真っ赤な唇。

小柄な身長。

まるでフランス人形のよう。

ちらりと後ろを向いた。

うん…、

嘘だけど。

そんな事怖くて出来ない。

目が合えば、笑えばいいの?

挨拶されたら、おはようと言えばいいの?

もし、一緒に行こうと言われたら…。

ね。

怖くて出来ないでしょう。

すいすいと幾人かが僕を抜いて行く。

僕はただあの子が離れ過ぎないようだと…

近づき過ぎないようにと…

ゆっくりと足音を重ねた。

とてとて

ひたひた

ととつ

ひとりひとり

とてとて

ぴたり。

音が止まつた。

僕も足を止めた。

小さな音も逃さなかつたのが、心なしか嬉しかつた。

そつと、後ろを振り返る。

さりげなく…

わからないよ、うん…、

嘘なんだけどね。

ぱたぱたと、音が近づいてきた。

僕じゃなく、あの子に。

おはようど、

僕に向けられた事のない挨拶をした。

おはようど、

あの子も続けて。

一つの音が僕を抜く。

赤と青の傘が雨を遮り、

青の傘が僕とあの子を遮った。

胸に蜂がちくりと刺した。

うん……、

嘘なんだけど。

僕は緑の傘をゆっくりと閉めた。

髪が、
頬が、

上着が、

スボンが、

全部が全部、濡れていった。
じつとうと、重たくなった。

頬に雨が垂れた。

好きだった。

そう、

あの子が……。

うん……、
嘘だけど。

宇宙だよ……鬱だから……ウソでしょ……詫だと書いてよ、ね、嘘なの。

うん…、
嘘だよ。

僕の両頬が零で濡れた。
雨か涙かわからない。

うん…、

嘘でありますよ。う。

僕の目が、
気持ちが、
全部が全部、
嘘で出来てますよ。う。

ね、

僕は自分に嘘ついた。

うん?

嘘なんだけどね。

気持ちとか全部。
嘘なんだよ。と。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6534k/>

嘘だけど…

2010年10月14日19時24分発行